

「台風が人に伝えたか、たこと」

日高小6年 田路 竜義

ぼくは、なぜ、語り続けていかないと思うかと言うと、どんな気持ちで、家とかをなくしたかと言うところか、これから、どんなことをしたらいいかという、台風が来たらやくだてる知識を知るためにあると思います。ぼくの家は、わたしの家は、ぜんぜんへいきじやなも、赤崎のほうは、ほぼ全滅でした。ぼくの家は、これからの知識が必要と申しました。

今度、台風が来るとこわいし、さっやくです。でも、一回でも来たことで、その台風の知識を知って、どうするかを、頭に入れること、2回目は、知識がやくにたつと思ひます。赤崎が、水びたしになつたことで、赤崎の人は、次はどうやって家を建てるかと言うことかわかるからです。ぼくの家も、水道の水が出なくなりました。でも、そのおかげで次はどうやってたらいいかというところがわかり

ました。

ぼくは、台風は、たぶん神様がくださった、みんなえの、どうすればいいか考える物だと思ひます。

ぼくは、この授業が いいと思つています。

それは、未来のためにする知識を出す訓練だからです。